

#### 4 アロマセラピーが有効であった股間・陰部真菌症の一例

伊藤高明  
八尾老人保健施設“風の庭”

【目的】股間部真菌症の治療法に抗真菌剤、消毒薬による坐浴等があるが、難治性の患者の治療法について再考したい。

【症例】81才、男性。糖尿病と神経因性膀胱の診断で、中間型インスリン療法、睡眠剤、膀胱機能改善剤等の治療をA病院で受け、1999年4月15日に当施設に紹介され入所した。

八尾老人保健施設“風の庭”の入所時に、糖尿病性神経障害、網膜症、股間陰部真菌症と診断され、それぞれ、アルドース還元酵素阻害薬や網膜レーザー焼却法などの加療をうけた。経口糖尿病薬では管理不良のため、混合型インスリン（ベンフィル30R）による管理に変更。神経障害と股間部真菌症は難治性であった。

【方法と結果】入所当初、股間・陰部真菌症に抗真菌剤（bifonazole）による治療を施行、悪化傾向にあった。

インフォームドコンセントにより、6月1日から坐浴による治療に変更。週2回15～20分の坐浴を2ヶ月間施行。

坐浴器（多比良社）に約500 mlの40℃の湯をはり、

極く少量のエタノール、

真性ラベンダー油100 μl、

ティートリー油100 μl（サノフロール社）を使用。

現在は、完全治癒しており再発や副作用は認めていない。

エッセンシャルオイルの抗菌スペクトラムについては今後検討していきたい。